

行政事業レビューシート (厚生労働省)

予算事業名	食品汚染物質の安全性検証推進事業	事業開始年度	平成16年度	作成責任者		
担当部局庁	医薬食品局食品安全部	担当課室	基準審査課	森口 裕		
会計区分	一般会計	上位政策	-			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	食品衛生法第11条	関係する計画、通知等	-			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	食品中の汚染物質(水銀、ヒ素、カドミウム等)における精密な暴露状況を把握し、個人によって摂取頻度の異なることに着目した安全性を検証する。検証結果は、今後のリスク低減のための方策(摂食指導、基準値の設定及び見直し)を講じる際の基礎データとなる。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	個人によって摂取頻度の異なる食品について、一定期間内の摂取実態調査を実施し、精密な汚染物質の暴露量を推定する。また、食品中の汚染物質(水銀、ヒ素、カドミウム等の重金属)は通常的环境中に広く存在していることから、広範囲の食品について、汚染物質の含有濃度実態調査を実施する。					
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・摂取実態調査 全国80地域 800世帯を対象に3日間実施 ・食品50品目の汚染物質含有状況について実態調査を実施。また、特に汚染物質を含有している可能性が高い食品1品目について、8地域にわたって実態調査を実施。 					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	39	37	29	28	51
	執行額	122	37	36		
	執行率	310.1	99.8	125.8		
	総事業費(執行ベース)	122	37	36		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	<p>本事業によって得られたデータは、規制対象物質に対し規格基準を設定するにあたり重要なデータとなるため、コーデックス委員会等の国際会議及び薬事・食品衛生審議会の審議において公表される事が前提となっており、適正な内容であるよう努めているところである。</p> <p>また、調査データに基づき、広く一般国民に対し汚染物質の含有濃度が高い食品について摂食頻度を下げるよう指導する等、活用しているところである。</p> <p>なお、平成21年度に本事業経費の大半を占めた汚染物質の分析機器については、適正な調達手続きを経て購入しているところである。</p>				
	見直しの余地	<p>調査対象となる汚染物質の選定について、当該支出年度時点において最も費用対効果の高い物質となるよう、最新の科学的知見及び従前の本調査結果を踏まえつつ検討する。また、調査の実施にあたっては、内閣府や農林水産省等の他省庁と連携し、費用面での無駄を省きつつ総体として精度の高い調査結果が得られるよう努める。</p>				
予算・監視の効率化	<p>食品中の汚染物質の含有濃度実態調査等に必要経費であるが、事業の必要性及び執行の観点からは概ね妥当であり、引き続き効率的な執行に努めること。</p>					
補記						

厚生労働省
6百万円

【随意契約】

【一般競争】

A 民間団体
3者 2百万円
(内訳別紙)

B 日本電子(株)
4百万円

[食品汚染物質に関する規格基準の設定及
び見直しのための分析機器保守・管理]

[食品汚染物質に関する規格基準の設定及
び見直しのための分析機器保守・管理]

資金の流れ
(資金の受け取
り先が何を行っ
ているかについ
て補足する)
(単位:百万円)

事務費30百万円

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

A.サーモフッシャーサイエンティフィック(株)			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	機器管理保守	1			
計		1	計		0
B.日本電子(株)			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	機器管理保守	4			
計		4	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

